

東シベリア・サハ 永久凍土の 大地に生きる

Sakha Republic, Eastern Siberia - Living on Permafrost



開催期間 2012.7.14(土)~10.14(日) [10.1(月),9(火)は休館]

開館時間 9:00~17:00 [10月は9:30~16:30]

観覧料	特別展	常設展	セット割引
一般	450(300)円	450(360)円	700(660)円
65歳以上	300円	無料	—
高大生	150(120)円	150(120)円	240(240)円

※()内は10名以上の団体料金



女性用帽子
(サハ)

協力 国立ヤクート北方民族歴史・文化博物館
総合地球環境学研究所シベリアプロジェクト
日本口琴協会 直川 礼緒氏 高倉 浩樹氏
堀 咲子氏 池田 カナ子氏 針生 幸子氏
U. ウンダール氏

寒極の冬 白夜の夏



女性用正装(サハ)



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

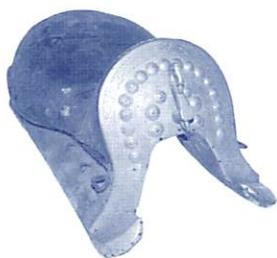


- 女満別空港から17km JR網走駅から5km
- 網走バス施設めぐり線で駅から15分
- 無料駐車場あり

◆指定管理者：財団法人北方文化振興協会
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1(道立オホーツク公園内)
TEL 0152-45-3888/FAX 0152-45-3889 <http://hoppohm.org>
写真上：冬の馬群／下：馬乳酒祭での口琴演奏(撮影：池田カナ子)

東シベリア・サハ 永久凍土の大地に生きる

サハ共和国は、日本の約8倍という広大な面積を持つロシア連邦内の共和国です。その領域の大部分は永久凍土に覆われ、特に内陸部は人間が住む土地としては世界でもっとも寒いとされています。しかし、こうした厳しい環境のなかでも、人びとは独自の民族文化を発展させてきました。本展示では、サハ（ヤクート）民族を中心に、サハ共和国に暮らしてきた人びとの文化を紹介します。



ウマ騎乗用鞍(サハ)

サハは、伝統的な生業として、ウマやウシの牧畜を営んできました。ウマはサハの伝統文化を象徴する存在で、現在のサハ共和国の紋章もウマに騎乗した人の姿が象られたものです。また、ウシは、特に19世紀以降は牧畜の中心的な役割を果たしています。ともに移動輸送手段として使役され、その乳や肉は食料、皮は衣類などを作る材料として利用されてきました。

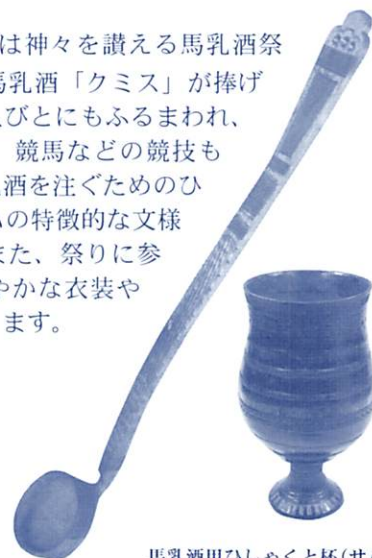


男性用衣類と手袋(サハ)

冬の気温が -50°C を下回ることもあるサハでは、防寒に適した毛皮製の衣類は生活必需品でした。毛皮製のコートやブーツなどは、伝統的な衣類として保存されるだけでなく、現在も日常的な防寒具として利用されています。



夏至の頃、サハでは神々を讃える馬乳酒祭が催されます。神に馬乳酒「クミス」が捧げられた後、参加した人びともふるまわれ、歌やダンス、ゲーム、競馬などの競技もおこなわれます。馬乳酒を注ぐためのひしゃくや杯には、サハの特徴的な文様が刻まれています。また、祭りに参加する人びとは、華やかな衣装やアクセサリーで着飾ります。



馬乳酒用ひしゃくと杯(サハ)

北部や山間部では、おもにサハ以外の北方先住民であるエベン、エベンキ、チュクチ、ユカギールなどによって、トナカイ牧畜や狩猟がおこなわれてきました。その伝統文化は現在も受け継がれています。



トナカイ騎乗用鞍(エベン)

- ◆ ◇講演会「氷と寒さを利用する文化：サハの生活と社会」 7/14(土) 10:30~12:00
講師：高倉浩樹氏（東北大学東北アジア研究センター准教授）
- ◇「展示解説会」 7/28(土)、8/11(土) 各9:30~10:00、16:00~16:30
- ◇「東シベリア・サハの楽器・口琴体験&ミニコンサート」 8/25(土) 10:00~11:30
講師・出演：直川礼緒氏(日本口琴協会)、鈴木紀美代氏(ムックリ奏者)
- ◇講習会「東シベリア・サハの刺繍」 8/25(土) 13:00~16:00 講師：直川ナディア氏（サハ文化伝承者）
- ◇講習会「東シベリア・サハの料理」 8/26(日) 10:00~13:00 講師：直川ナディア氏（サハ文化伝承者）
- ◆ ◇はくぶつかんクラブ「シベリア風ぎょうざ・ペリメニを作ろう」 9/22(土) 10:00~12:00